



在中国日系企業の組織づくりをサポート

株式会社 TAO Partners 代表取締役社長
Invenio Asia Holdings, Ltd (Hong Kong) CEO

おおしろ あきひと
大城 昭仁 さん



友好
訪問

歴史的転換点にある中国で
企業のあらゆる課題を解決

満

足度の高い講演が評判を呼び、今年5月、日本人大学生と中国人留学生が日中の未来を担うリーダーとなるべく企画された「日中協働リーダー育成プロジェクト」において、自身の中国でのビジネスとそこから得た思考法などを話した。参加者からは、「中国でゼロから起業した話に驚いた」「長期的な視点が興味深かった」と大好評。優勝チームにアドバイスしたところ、さらにブラッシュアップした案が届いたので、アクセラレータープログラム（事業共創支援事業）を紹介した。

率先して海外出張へ

中国でビジネスを展開しようと思っていたわけではない。大学卒業後は証券会社に入社。2006年、30歳を越えた頃に、これからの人生を考えようと、休日に友人たちとホワイトボードがある喫茶店に集まった。仕事で培った手法でさまざまな分析を行い、今後の世の中を予想した結果、「今まではドメスティック（国内的）に生きてきたけれども、海外に出て行かないとおもしろくなさそうだ。5年以内に海外に出るぞ！」。

【プロフィール】

野村證券、独立系投資会社を経て、2004年にMckinseyのOBが設立したコンサルティング会社、インヴィニオに入社。100社を超える上場企業において、次世代経営者の育成、新規事業創出、PMI、グローバル組織開発プロジェクトなどを主導。2011年より中国代表、2016年よりアジア代表に就任。2019年、株式会社 TAO Partners を設立し、インヴィニオのアジア部門をMBOすることで独立。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員（CMA）、国際公認投資アナリスト（CIAA）、上海市浦東新区外商投資企業委員会常務理事。日本中華総商會執行理事。東洋経済Online、WheneverBizCHINAなどで対談・連載多数。

まれた。中国でプロジェクトを推進するうち、「この仕事、自分に合っているな」と実感。中国で起業し、中国人社員と一緒にビジネスを始めることにした。

「中国は日本と文化が違うから、日本とマネジメントを変える必要がある。一筋縄ではいかないところがおもしろいと思いました」

ところが、日系企業で働く中国人の実態を読み取り、起業して半年で倒産の危機に。国慶節に日本に帰り増資を受けると、中国人向けコンテンツを開発。それがヒットして、2年目に業績黒字を達成した。

あせりまじ中国と交流を

日本との文化の違いだけでなく、中国国内の世代による気質にも顕著な違いがある。特に中国の90後（1990年代生まれ）以降の若者は、仕事では優秀だが、年上の人の話よりもネットの情報を信じる。そんな中国の若者の研究は、喫緊の課題となっている。

目覚ましい発展を遂げる中国には、日本の若者にとっても確実にチャンスがあるという。だから、新型コロナウイルスの影響ですぐに中国に行けなくても、「あせりまじ」、中国とオンライン交流を続けてほしい」と願う。

いま、中国が歴史的転換点にさしかかっているのを感じている。その大きな視野と確かな実績が、柔らかな語り口と相まって、顧客の信頼度のみならず、数々の講演の満足の高さにもつながっているのだらう。